

シンポジウムの開催結果

- 日本工学会／科学技術人材育成コンソーシアムとCPD協議会の共催で、「初等中等教育からリカレント教育まで」のテーマで、従来のCPDから範囲を広げて開催した。
- 申込者は110名、うち86名が参加した。
- 産業競争力懇談会(COCN)や日本ディープラーニング協会など、産業界の視点に軸足を置いた取り組みを重視し講演を企画した。産業界のニーズを取り入れるという、CPDプログラム委員会の今年度の方針やCPDガイドラインの見直しの方向性にも沿ったものとなった。
- 藤井先生からは、STEAM教育の推進により探究力を育成強化することが重要であり、特にデータを集めるだけでなくデータを使いこなせる人材育成には"A"(Art)教育が必要であることが述べられた。また質疑応答では、大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育について、社会のニーズの変化に応じて大学と社会(産業界)の双方向で教えあう必要があり、そのような場を作りたいとのコメントがあった。CPD協議会の活動にも参考になると思われた。
- 後半の意見交換では、COCN江村様にも参加頂いた。「学びのイノベーションプラットフォーム」の立場から、大学に入る前の意識づけが重要、教育に関する従来の様々な活動も「点」で行われておりそれをつなげていくことが重要、教育のあり方をリデザインするとの「プラットフォーム」設立の目的について説明された。